

江村りさ



プロフィール 江村りさ

1985年生まれ。嵯峨野保育園、嵐山小、嵯峨中、北嵯峨高、同志社大学卒業。

学生時代に村山祥栄京都市議のもとでインターンを経験。商社勤務(東京)を経て2011年市議に初当選、現在3期目。主な実績は、高校入試制度改革/いじめ対応強化/AEDマップ推進/不使用の歩道橋撤去等。父はサラリーマン、母は看護師と、議員とは無縁の家庭から、しがらみ無く立ち上がったからこそできる市政改革に奮闘中。



京都市議団長として緊急要望を提出

検査体制強化と医療体制支援を！ そして豪雨に向けコロナ禍の防災対策！

京都市の新型コロナウイルス対策は第二波のリスク軽減に向け、検査体制のさらなる強化、往来の多い店舗や施設でのサーモグラフィー設置など感染拡大防止策の徹底、医療体制の確保など、市民生活の安心安全に向けて日々対応に励んでおります。

京都市は財政難により、新型コロナへの独自対策の財源が枯渇していたことから、緊急的対策に向けた財源捻出を求め、新たに16億円を捻出しました。

豪雨をもたらす線状降水帯や、今後の台風襲来に備え、新型コロナと防災を掛け合わせた対応も必須です。

宿泊施設を活用した避難を提案し、まずは要配慮者の利用を決定するなど準備を進めております。

新型コロナ第二波に向けた対策強化！

1 全自動PCR装置の導入

息苦しさや発熱など、体調に不安を感じたら検査を受けられる環境整備が必要です。感染リスクを最小限に抑え、多検体を短時間で検査出来る装置の導入を求めました。



全自動PCR装置2台の導入。

これにより一日80件PCR検査数が増加し、**計550件/日**の検査が可能に。



さらに提言 **唾液による検査(SATIC法)も府内140カ所のかかりつけ医にて可能に。**

2 医療崩壊を招かない支援強化

コロナ禍第2波が来ても、医療崩壊が起こらないよう、経営体力の低下している医療機関への支援を求めました。また、介護や障害者福祉の現場においても、経済的支援や物資の優先提供を引き続き行うことを要請しております。



議員報酬カット分も、こちらの財源に充てられています！



医療・社会福祉施設への支援実施。

- ・病院 各100万円
- ・診療所 各10万円
- ・社会福祉施設(高齢及び障害)各10万円

3 宿泊施設を避難所に！

コロナ禍で大規模災害が起こり、避難所が密になれば当然クラスターリスクが高まります。災害時の避難場所として宿泊施設と協定を結ぶよう提言しました。



宿泊施設の避難所利用が前進！

要配慮者及び保護者は宿泊施設利用可能に。



さらに提言 アンケートによると宿泊施設50カ所が協力可能であるため、**宿泊施設との更なる提携拡大や学校の一般教室の全面活用**など、従前より課題である**避難所充足率不足を一気に解消**。

4 オンライン授業の環境整備を！

学校休業は解除されたものの、人と接触する限り新型コロナの感染リスクはあります。緊急時でも児童生徒の学習機会を守るため、これまで二の足を踏んできたオンライン学習に向けて環境整備を求めました。



1人1台のパソコン端末整備。

家庭への端末貸与時の通信費助成や、遠隔学習時に活用できる大型掲示装置なども併せて環境整備が始まっております。

